

船橋小学校 校長室から

No.2

船橋市立船橋小学校

校長 野木 英表

4月23日に実施した学校経営説明会でもお話をしましたが、「日本の若者の自己肯定感」は諸外国の若者と比べて低い」という調査結果がこども家庭庁から発表されています。

自己肯定感とは、自らのあり方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情などを意味する言葉で、自分のことが大切で、今の自分に満足している子供の心や行動のあり方を指します。

自己肯定感の高い子供は、「自分が価値ある存在である」と感じていて、自分に自信があり、様々な物事に取り組む意欲が高いと言われています。

ある調査によると、子供の自己肯定感は小学校低学年で大きく低下する傾向があるという結果が出ています。小学校に入学し、周りの環境が変わり、子供自身も他人と比較し始めることが影響すると考えられています。「〇〇さんは計算ができるのに、自分はよくわからない」「みんなより走るのが遅い」など、友達と自分を比較することができるようになる成長から感じるものなのでしょう。

船橋小学校の子供たちの自己肯定感はどうでしょうか。全校での調査は行っていないませんが、毎年6年生が実施する学力学習状況調査質問紙の結果を見ると、全国平均より約7ポイント高い結果が出ています。しかしながら、学校生活を見ていると、学年や学級の代表選出や各種大会への参加のときなど、「やってみよう」という意欲がもう少しほしいと感じることがあります。

学校では、昨年度から「自己肯定感を高める」ことを重点目標として、子供たちの良いところをできるだけ褒めるように意識をして取り組んでいます。我々教員にとっても、良いところを見つけて褒めることは、意外に難しいことで、どうしてもがんばらせたいことや改善させたいところに目がいつてしまいがちになってしまいます。

保護者の方も、幼稚園や保育園と違い、小学校入学から学習が本格的に始まり、いろいろな不安を持ち、できることよりもできないことに目がいつてしまい、不安を感じてしまうことがあるのではないのでしょうか。

先日の土曜参観で、元気に手を挙げて発表する姿や友達と協力している姿を見ていただいた保護者の方は、「楽しく学校生活を送っているな」と安心されたことと思います。その一方で、発表の時に声が小さくて聞こえなかったり、あまり友達と関わっていなかったりする姿を見ると、「大丈夫かな」と心配されている保護者の方もいるのではないのでしょうか。

保護者の不安は、知らず知らずのうちに子供たちに伝わります。不安があったら遠慮なく担任やスクールカウンセラーなどに相談をしてください。

「褒めることで子供は伸びる、認めることでやる気がおこる」

この言葉のとおり、褒めること、そして認めることは、教育活動の中核であると考えています。

夏休み前の個人面談において、子供たちのがんばったことやできるようになったことを伝えていきたいと思います。ご家庭でも、個人面談の話を話題にいただき、たくさん褒めてあげてほしいと思います。

また、何もなくても「あなたのことが大切だよ」ということを伝えることも、とても重要なことで、自己肯定感を高める秘訣と言われています。「毎日元気に過ごしていることが、とても嬉しいよ」ということも伝えていただき、学校と家庭で連携し、やる気溢れる子供たちを育てていきたいと思っています。

※頑張ったことをほめることを「条件付きで褒める」といい、何もなくても褒めることを「無条件に褒める」といいます。無条件に褒めるとは、「あなたのことが大好きだよ」「あなたがいてくれて本当に幸せだよ」「生まれてきてくれて、ありがとう」など、存在自体を褒めることです。

※校長室から No.1 は、昨年度発行し、「あいさつ」についての内容を掲載しています。学校ホームページにアップしてありますので、お時間がありましたらご覧ください。